

真崎地区 村政懇談会

日 時：平成29年6月30日（金） 午後7時から9時まで

場 所：真崎コミュニティセンター会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，

福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局次長） 計10名

事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員3名） 計6名

自治会長（真崎区，舟石川三区，原子力機構荒谷台区） 計3名

自治会連合会（会長，事務員1名） 計2名

参加者：真崎区44名，舟石川三区10名，原子力機構荒谷台区2名，その他49名 計105名

司会進行：企画・総務部会長 松江秀明

総計126名

《次第》

1. 出席者紹介（自治会長並びに村執行部）
2. 真崎地区自治会会長挨拶
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 真崎地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
6. 質疑応答
7. 村政に関する意見交換会（自由質問）

《記録》

【4. 村長挨拶並びに村政の説明に対する質疑】

真崎区住民：歴史と未来の交流館の財政について。東海村公共施設等総合管理計画を、皆の意見聴取の時から勉強している。今後60年間、今までのやり方で施設の管理運営及び更新をすると、毎年33.1億円かかる。今後の人口減を考えると、施設の管理等に充てられる金は年間24.9億円になる。8.2億円が毎年不足する。それでどうしたかという、施設を更新する時には、いろんなところと合同で作る、例えば、ごみ焼却炉や消防署、それで7億位リカバリーできる。そのためには、更新するときには10%面積を小さくするという対策を、無理やり講じて、やっと24.9億円になる。計画の前提としてある施設は、去年の3月時点の施設であり、そこには、中央区画整理事業が入っていない。今回の歴史と未来の交流館も入っていない。簡単に私が判断すると、今後モノはできない、ということになる。村が作った計画の中で、村が計画を無視してやっているように思える。

村長：公共施設等総合管理計画は平成28年度時点であり、平成29年度以降のものは入っていない。今回の歴史と未来の交流館も大きい、それ以上に大きいのは区画整理だ。中央地区の区画整理事業に、このあと投入する金を考えたら、歴史と未来の

真崎地区 村政懇談会

交流館以上になる。それだけ金をかけるのは、あの地域が、今は単なる農地だが、結果的に宅地等になり、役所からするとそこは評価額も上がる。固定資産税も上がり、税収増にもつながる。人が住まないという意味がないが、あれだけの宅地造成をするので、人口が減る中でできるのかというのがあるが、東海村は転入者が多いので、インフラで先行投資をする。ある程度の見込みがあり今やっている。それが皮算用と言われればそれまでだが、投資とはそういうもの。税収増にもつなげたい。ただ、造成費が税収だけでまかなえるかという、そう簡単ではない。いろんなものを駆使しなくてはならない。村内に空いている工業団地はなく、埋まっている。これ以上大きな企業が来て、大きな金が落ちることはない。だからといって原子力だけを相手にするわけではない。村内の企業でも業績がいいところは設備投資をしている。そういうところは、それなりの税収増にもつながっている。具体的に何ヶ所かあるが、個別の事業所だから言わないが、そうやって東海村の働く人、住む人の環境、事業活動する人の環境を整え、税収に結びつけることで、将来的なバランスを変えることもできる。投資したものが全部コストで、全部皆さんの住民税を当てるのではなく、それ以外の税収増につなげることを同時にやっていくことで、全体のバランスを変えられると思っている。具体的に数字を示せと言われても今はできないが、説明責任があるから長期的には試算しなくては行けないが、時期を見てそういったことも示したいと思っている。

真崎区住民：東海村の各地区に、この地区だと阿漕ヶ浦公園と、真崎古墳群の中に、放射能の影響があるという除染廃棄物が、たくさん、行灯祭りをやっているところにおいてある。もう6年以上過ぎており、片付ける方法はないかと考えている。村でその見通しがあれば、片付けてもらいたい。行灯祭りをその場でやっているのだから。あそこに長く住むと影響があるということで、我々、先日清掃に行ったが、70、80名の方が朝早くから整理した。中学生も何人か来てやっている。早くどこかに処分することを考えていただきたい。

村長：真崎古墳群、白方公園、石神城址公園、阿漕ヶ浦公園、なぎさの森公園、平原南部の工業団地内、の6箇所に置いてある除染廃棄物で、表土をさらったり削ったりしたもの。それぞれの公園が、空間線量が0.23マイクロシーベルト以下になるまで剥がした。枝葉と土と、両方がフレコンバックに入っている。本当は、枝葉は燃やしていい、と環境省から言われている。ただ、東海の可燃物は全てクリーンセンターで処理しており、あの周辺に住んでいる方のご理解が得られないと。環境省は基準上問題ないというが、そうはいかないというのがあり、ひたちなか市と調整している。枝葉が処理できればだいぶ数は減る。だが、土は残ってしまう。土はその辺に捨てるわけにはいかない。どこに持って行くかという、村外にはなかなか持って行けないとなると、村内のどこかに持っていかなくてはならず、どこにするのかがなかなか難しい。あとは、移動する途中で飛散する可能性もあるので、安全な輸送とか、濃度とか、

真崎地区 村政懇談会

クリアする問題がある。今環境省と調整はしている。役場も十分認識している。真崎古墳群も申し訳ないが、阿漕ヶ浦公園は国体のホッケー会場になっており、みすぼらしいので移動したい。それも2年後なので切羽詰っているところはあるが、環境省と詰めているので、もうちょっとお時間下さい。

【6. 質疑応答（真崎地区自治会からの事前質問・要望に関する回答）】

質問－1 小学校区と自治会区域の整合性依頼について

質問なし。

質問－2 地区自治会の事務局のあり方について

村長：これは私からお答えする。今、配布したペーパーには、質問2の回答があるが、これを読むと皆さん納得できないので、(紙面は)なかったことにする。別に事務方が悪いわけではなくて、去年いろいろ議論していた。地区自治会の教育部会と福祉部会に、村民会議支部と地区社協がある。結局、地区自治会の部会なのだが、地区社協は地区社協として総会をやり、事業計画もある。村民会議支部も同じ。形上、部会になっているが、実質は別組織というのがある。当然、支部の予算は本部から流れ、地区社協の予算も村社協から流れている。地区自治会のお金は自治推進課から流れている。金の流れが違う。ただ、コミセンを活用する皆さんからすれば、どこの金だろうが、ここでやっていることは変わらない。そこが、私の配慮がなかったのは素直に謝りたい。ただ、役場としては、整理していくと、どうしても突き当たってしまった。地区社協の仕事は大変だと思う。事務局の仕事をコミセンの職員がやっていたのだと思うが、単純にどのくらいの業務量かと考えたとき、ある程度少人数でもできると単純に思った。多分、通知文を出したり、ものを買ったり、帳簿をつけたり、1日8時間とか、1年間ずっと通してある仕事ではないと思うが、そういうことではなく、コミセンに分かっている人がいることで皆さんの活動がやりやすい、ということだと思う。そこが崩れてしまった。そこの視点、配慮がなかったことは反省している。来年どうするかは、もう一度コミセンのあり方をどうするかまできちんと考えないといけない。どの組織でも、皆さん仕事がかぶっている。単位自治会役員が地区自治会の役員で、地区社協の役員もやるなど、何個か兼ねている。皆さんが活動しやすい形がある。一方、コミセンは村が公の施設として管理している。昔、管理も地区自治会にお願いするという話もあったが、議会から否決され、そこまで全部を住民に任せることはできない。箱ものの管理は役場がやって、活動について誰が事務を取るかという時、住民にそこまで取らせるのか、というのがある。その仕事を役場の誰に取らせるのか、それが非常勤職員という、5年ぐらいの年限がある職員。役場職員も、再任用でやっている。どこかで人の異動はあるから、ここにずっと地域のことが分かっている人がいる形は、役場で行うのは難しい。逆に地域の中からそういう人を見つけてもらったほ

真崎地区 村政懇談会

うがいくらい。本当に活動をやりやすくするために、コミセンにどういう職員が必要で、どういうところでやったらいいか、再定義が必要。いずれにしても、こういう混乱を招いた。これは、私の方で整理できないか、と指示したことである。活動が大変なので頭数だけを残したが、中途半端になり、そこは素直に反省したい。このペーパーにはそういうことは書いてない。役場職員の立場ではここまで言えない。これは村長が言わないとここまでは答えられない。最初からこの文書はなかったことにして、私の喋ったことを頭に入れてほしい。来年以降どうするのかは、今までの体制がいいのか、よく地域の実情を考え、皆さんの活動に支障のないようにしたい。

真崎区住民：私に考えさせてくれ、との話だったが、その考えをちょっとでも教えて欲しい。また3人で2コミセンずつ担当するとか、社協に置くとか、違うことを言われるとまた怒らなければいけない。こういう方向で実は考えている、というのがあると、ホッとする。真崎は専門サポーターが1人辞めてしまい、人がいない。日々連絡を取るのに社協の職員も自分の仕事があるからあちこち動いているし、コミセンに居られないから、追いかけて連絡することが今起きている。これをもう一ヶ月といわれるともう、という状況の中で、ちょっとだけ考えを伺いたい。

村長：この形は続けられないと思っている。3人いたほうがいいのか、平成28年の時に単純に戻すかどうか。言い訳させてもらおうと、もうちょっとさかのぼると平成26年の頃は2人だった。その時から、多分3つの事務はやっていた。再任用として役場職員がセンター長になり、センター長、副センター長、副センター長の3人体制にした。その時は、こちらまちづくり協議会を提案しており、そういう新しいものを立ち上げるとなると大変だろうと、従来の地区自治会をやりながら移行するのは大変な事務量なので、3人を置いたのが元々の発想だ。でも、まちづくり協議会は皆さん必要ないというのが結構多くて、今のままの地区自治会でいいとなると、まちづくり協議会をやらないなら数年前と同じだよ、と考えると2人でもできるのかな、と思った。ただ3人で始めてしまうと、それでやりやすくなっているから、そこをはがすと不満があるのだから、そこは考えないといけない。理想化すると平成28年度に戻せ、ということになるのだろうけど、後は金の流れをどうするか、指揮命令系統をどうするか、そこは役所的な発想だがそこをクリアする、住民側からは関係ないといわれるかもしれないが、役場側は整理しなくてはならないので、そこが悩み。いずれにしても、これ以上皆さんの反感を増幅させるのは避けたいと思っているので、そこは十分配慮したい。

【7. 村政に関する意見交換会（自由質問）】

真崎区住民：村行政にはお世話になっている。40年前に、真崎地区で、毎年行われていた真崎ソフトボール大会に、根崎スネークスというチーム名で参加していた。最

真崎地区 村政懇談会

終回の大会では準優勝を勝ち取った。その仲間も4人が亡くなり、現在入院中が1人と高齢化が進んでいる。30年前に始まった区画整理事業も橋の完成を待つてようやく事業が完成になる。当根崎常会も様変わりすることになる。区画整理の完成を楽しみにしていた近所のお爺さんが7年前に亡くなった。自分がそのおじいさんの年に近づいていることを強く感じる。今日は、大きく変わりつつある根崎地区及びその近傍に集会所の設置を心から要望する。現在の真崎集会所は、産業道路を隔ててあるため、高齢者にとっては車の運転が大変危険だ。また運転できないお年寄りも増えていることが、真崎集会所を利用しにくい最大の理由だ。中央区画整理事業の完成のあかつきには、根崎近隣地域も飛躍的に世帯数が増え人口も増えていく。橋の海側は緑地と調整池、駅側は緑地と公園が予定されている。集会所の設置を強く要望する理由は、第一に、区域の高齢化が進み、歩いていける距離に集会所がほしいと要望する人が多いこと、第二に人口増加が見込まれること、さらに区画整理事業が完成途上であり、用地の確保が期待できること、が大きな理由だ。後日、関係窓口に、請願書と根崎常会ほぼ全数の33世帯、59名+5名の署名を添えて、請願するので、よろしく願います。

村民生活部長：お答え申し上げます。高齢になっていくので、歩いて県道を越えて集会所へ行くのは大変だということと、区画整理事業が進み、人口が増えてくるので、新たな集会所を作りたい、とのことと思う。まず、各单位自治会が30あるが、その中で事業所系の自治会を除けば、集会所は1自治会に1つということで、各自治会で建て替えを進めているところもある。一方、真崎地区は広いエリアであるとの認識は私もしており、区画整理で人が増えていくというのもある。お伺いしたところだと、今のところ根崎地区だけの話かと思う。40何名で、真崎地区の全体加入世帯数は700世帯弱ある。まずはこういった話題・課題を、地域の皆さんで話し合ってもらいたい必要あるのではないかと思います。当然、要望を受け付けないわけではないが、地域のまちづくりにあたり、皆さんでどういう方向にするのか、いい方向にいけるのかが大切であり、どういうやり方がいいのか。集会所が脇にあるから歩いていけるという話になると、ちょっと離れた別の人にはまた歩いていけないという話になり、どの位置に建てるという話も出てくる。建てる、建てない、の話ではなく、根崎地区から近いところという要望にはなるのだろうが、皆さんで話がされるべきと思う。お答えになってないかもしれないが、そういう課題は地域の皆さんでも考えてもらいたいし、村でも一緒になって相談に乗りたいと思う。

真崎区住民：今提案のあった話だが、村民生活部長の話だと、進め方としてまずは地域の中でよく話し合っただけという話があった。これは当然のことだが、先ほどの方が言いたかったのは、手順として、そういう手順もあるが、一緒に進めていってもらいたいという気持ちなのだ。したがって、根崎地区ではほぼ全員が賛成だが、その周辺地

真崎地区 村政懇談会

域の人たちとはこれから話し合っていく。その時、手順として、村も具体的にこういうことなら協力できるとか、そういう具体案を協力してもらいたい。それで、地元でも皆さんに諮っていきたい。地域で全部作って出してくれというのものもあるかもしれないが、我々としては両方並行して検討し進めてもらいたい。これが提案者の気持ちだ。協力して検討をすすめてもらいたい。しいて言えば、真崎地区は700世帯と大きい。昔そういうことを検討したとき、地域の活動は、なるべくこじんまりとしていたほうが活動しやすいという話があったと思う。500戸を目安として、それ以上のところは区切ったほうがいだろう、という提案も確かあったと思う。そうすると、700世帯だとそれを超えるので、場合によっては自治会をもう一つ作るというの也被えられるかもしれない。そこは、柔軟に、村と一緒になつて検討してもらいたい、というのが地域の我々の希望だ。よろしくお願ひしたい。

村民生活部長：私どもが協力しないわけではないが、例えば、この真崎地区を2つに割る、なんて話を行政からすることはないとお願ひしてください。皆さんの中で、どういふ話合いになるかは、話をしてもらいたいし、そこに行政が入れといふのなら、私が一緒に行つてもいい。今、高齢化が進む中で、真崎区自治会を半分に割つてしまつたら、益々高齢の方がそれをやらなくてはならない、という可能性も出てくる。こういふことは、皆さんでゆつくり考えないと。集会所だけの話ではないように思ふので、時間をかけて話をした方がいふのではとお願ひする。

真崎区住民：部長のおっしゃることは良く分かる。我々もそう思つているところもある。そう単純じゃないけれど、一緒に話しながら検討を進めていただきたい。

真崎区住民：1自治会に1集会所と言つたが、それは昔の話ではないか。そういう決まり事にこだわつていたら、これから先やつていけないでしょう。各自治会が、各集会所で活動しているその活動が、別の場所に同じくらいの活動拠点ができるといふのなら、作るべきと私は思ふ。そういう現状に固執してどうのこうのといふ話ではなく、これから集会所を作ろうとする問題は、先ほどの住民が言われた方向でやつていただきたいと思ふ。よろしくお願ひする。

村長：多分、集会所といふ場所が欲しいといふことですよ。それは、皆さんが集まれる場所といふことですよ。集会所は自治会のものなので、集会所にこだわると組織を作つた後の集会所になる。いや、皆さんが集まれるサロンの場所が欲しいといふのであれば、また別の視点で考える必要があると思ふ。集会所に固執しなくてもいいと思ふ。皆さんが集まれる施設をどういふ形で地域に作るか。高齢者のサロンのなものもこれからもつと必要になる。ただその場所がない。

真崎区住民：集会所を作るといふ考えは、一応お持ちか。

村長：集会所ありきではなく、その地域では何が必要か。何をやるためにどんな施設が必要か。最初から集会所と決め付けず、この地域にどういふ機能を持った、どうい

真崎地区 村政懇談会

う施設が必要なのか。もしかしたら、空き家を改造すればできるかもしれない。それは根崎地区の人が集まれるサロンのような活動場所として使いたいなら、そこに改修費を出すのもあるかもしれない。集会所を建てるとした時1300万円の村の補助金は出るが、皆さん達で金を出せるかという、ひとつの建屋を立てるのは2千万円から金がかかるから、皆さん方の負担にもなる。それを管理するのは皆さん方であり、どんどん自分の負担も増えていく。まず何をやりたいか、どういう施設が必要か、そこをきちんと押さえてから、それが集会所なのか、別のものなのか、そういうところから議論をしていきましょう。

真崎区住民：例えば別支部みたいな見方もありうるのか。

村長：自治会という組織にこだわるのなら、それは自治会の問題であるが、自治会とか集会所という考え方を一回脇において、根崎地区と周辺で、誰がどういう目的で、どんな施設でどんな場所が必要なのか、きちんと一度議論して、それに必要な施設は集会所がいいのか、違う形のものがいいのか、次のステップでそこは考えたほうがいい。その話し合いの場には、村の関係するところは入るので。よろしく願います。

真崎区住民：高齢者調査をやっている。老人からいろいろ聞かれるところで2点ほど、村で研究しているならいいが、研究して欲しいことがある。1つは、高齢者は免許が返納になるが、村の公共交通機関は不便だ。家から公共交通機関まで歩いていく際の坂道がきつくて行けない。デマンドがあるが、予約が取りづらく、病院とか、行事のあるところに行くだけであればそれで済むが、帰りが帰って来られない。これではデマンドの要求はなくなってしまう。もう少しその辺のことを考えてもらい、むしろタクシーを利用してもらい、そこに何割かの補助をすとか、あるいは限度を設けて、村内だけなら東西6キロ位だから、2千円あれば足りるので、半額まで出るようにしてやるとか。その時、年間で週に1回くらい病院に行くなどの考えで、そういった支援、検討をしてもらいたいのが1点目。

もう一点は、独居老人がいるが、緊急通報システムが固定電話しか使えない。老人の方は、固定電話と携帯どちらを持つかという、携帯を持つ。メモリ機能もあり、親戚知人に電話しやすい。固定電話は基本料金があり費用を取られるから、どうしても固定電話は解約してしまう。今の村が進めている固定電話だけの通報システムは役に立たない。固定電話よりも、スマホで音声認識もあるし、アイロボットなどもある、東海村でもそういうものも考えてほしい。考えてないなら検討して、今後の高齢社会に対し、手当てをしてもらいたい。

村長公室長：村内の公共交通は、バスとデマンドタクシーの2つの方法で運行している。バスは、現在3路線で運行しているが、区域に路線がない人は使いづらい。そこを補うため、ドア・ツー・ドアのデマンドタクシーを運行している。デマンドタクシーに関しては、先ほどの質問の中で、帰りが使えないとの話があったが、これは行き

真崎地区 村政懇談会

帰りも予約してもらえれば対応できることにはなっている。公共交通のバスが運行してこちらの利用が昨年より延べ1万人増えているため、デマンドタクシーの利用が減ってきており、予約も取りやすくなっている。デマンドタクシーの申込みが難しいというご意見もあるので、今後我々も注意しながら対応したい。よろしくお願ひしたい。

福祉部長：タクシーが利用できないかとの話であったが、現在、そういう利用できるシステム、事業はあるが、ある程度限られた、条件があつて使えることになっている。細かいことは資料が手元にないため詳細は説明できないが、そういうことは、ある。社会福祉協議会でも送迎サポートのような事業もやっているのだから、それは、そちらにお問ひ合わせいただければと思う。電話に関しては、緊急電話は、ボタンを押すと消防署に連絡が行くのかと思うが、確かに今固定電話でNTT回線のみでしか使えないということで、ご不便をおかけしている。今年か来年、NTT回線だけでなく au 等が使えるようにそれは改善したいと考えている。ただ、まだスマホ等は検討段階であり、話は出ているが、そこまでは行くという話にはなっていない。

真崎区住民：交通のシステムが社協にあるとのことだから、周知できるのであれば、そういう資料をもらつて、老人の方にもつていくなど、できると思う。そういう利用が今できていない。もう少し行政として、手厚いことをやっているのであればきちんと周知して欲しい。デマンドの話は、当日行くほうはいいが、帰りが。時間は、何時に帰ってくるという形の予約の仕方は、なかなか難しいよね。病院に行って何時に終わるのか、2時間後に終わると言つても、病院が30分で終わってしまったら、あと1時間半は病院で待たないといけなない。そういうことを含め、手厚い考え方をしてもらいたい。それと、独居老人の方は、行くと話し込むくらいに寂しいこともある。今、独居老人の方と会話ができる人形もある。もう少し進んだシステムの取り入れの検討もお願いしたい。

福祉部長：周知は、できるだけ高齢者の皆様に伝わるようにして参りたい。緊急の独居老人の方に対することについても、できるだけ検討を進めていきたい。

真崎区住民：考え方を聞きたい。東海村で看板なのだが、えらいどぎつい看板がある。「日本で一番危険な村」の看板。魅力的な積極的な情報発信とあるが、国体とか、1万人くらい来るといふ話の中で、数年前から気になっている。議会の議事録を見ると書いてあつたりするが、何とかならないかなと。ちょっとショック。考え方を聞いておきたい。

村長：議会でも取り上げられている。私は「残念だ」といふ答弁はした。村として、看板に対し指導ができるかといふと、できない。村は、看板の大きさや建てる位置など、形式上の形は指導できるが、書いてある中身は表現の自由の方が優先される。議会の一部の方で、ぜひ看板を取り下げて欲しいとの要望もあるが、所有者の方が自分の主義主張だから続けるといふている。私の言葉は結構重いので、和やかな場でも発

真崎地区 村政懇談会

言は控えたい。

真崎区住民：教育長に伺いたい。世間をにぎわすいじめや体罰について。今日集まりの皆さんもお孫さんがいると思う。うちでも小学校の孫がいるが、東海村の小中学校でそういう問題がないのか。教育長の考え、現状、教育方針を聞きたい。

教育長：今、新聞報道で、2015年が取手市の問題だったと思う。2016年に青森であり、仙台は3件あった。2014、2016、2017年と続けてあった。最近では新潟県の新発田市は6月。いじめで自殺した中学生の報道は最近多いと思う。東海村でいじめがあるかどうかだが、今、いじめ件数ではなく、いじめ認知件数で調べている。それは、友達にからかわれた、悪口を言われた、無視された、ひやかされたなど、自分で精神的につらいなと思ったものは全ていじめとして件数を調べている。村としては、学期1回ずつ調べており、小学校では150件位、中学校で15件位出てきている。最近では今年の6月で、小学校は約200件、中学校は17件で、認知件数としては結構ある。なぜ出てきたかという、からかわれたり、自分がいやな思いをしたらどんどん出してください、としたから。どんどん出てきたほうが、子どもが学級の中で自分の思いを伝えられ、学級作りにとって良い、という考えで取り組んでいる。そして、多い少ないは別にして出てきたものにはすぐ対応しようと考えている。火曜日、取手市の問題があり、全44市町村の指導主事の先生が研修してきた。村として再確認したのは、1つは、村は自殺者が出たから重大事案という考えではなく、からかわれるなど、つらい思いをした時点で重大事案だ、という認識で取り組もうという考えで、先生方一人ひとりの意識醸成を図っていききたい、2つ目は、早期発見、早期対応ということで、気が付いたらすぐ対応しよう、1人の先生で対応するのではなく、別の先生も一緒にチームで対応していこうという考えだ。文科省では3月くらいでいじめが解消したら解消したととらえるが、そうではなく、村では解消しても1年位のスパンで見えていきたいと思います。こういう例がある。中学校時代で友達にからかわれ、辛い思いをした。そのたびに学校としては解決してきた、取り組んできたが、「何で加害者が、高校に行って伸び伸びやっているのか、私はつらい思いをしたのに」という保護者や子どもがいる。問い合わせもある。しっかり受けとめて、学校に伝え、子どもたちにも伝えていこうとしている。3つ目は、これが一番大事だが、子ども同士の間人間関係作りが今は下手。例えば、中学校の合唱コンクールでは、歌いたくないという人もいる。怒られたりする、喧嘩をしながら作り上げていく、そういう場面が少ない。そういうふうには作らないと、折り合いをうまくやる、調整する力が今の子どもには少ない。大人がすぐ止めてしまう。保護者にもそういう経験をしないと人間関係がうまくいかないよと伝えていききたいと考えている。保護者や地域の啓発は、広報にも載せたが2014年は9月10日号に「いじめゼロを目指して」として東海村いじめ基本方針やこんなことをやっているというのを載せている。小中学校では、4

真崎地区 村政懇談会

月のPTA総会のときに全ての学校で、校長から、例えば白方のいじめ防止についての取り組みを伝えている。ただ、村民の皆様には伝わらないところがあるため、随時伝えていきたい。また、地域の方で登下校の際などに気になることがあれば、すぐご連絡いただきたい。よろしくお願ひしたい。

真崎区住民：私も同じ質問がしたかった。教育長の話聞いて安心した。もう少し突っ込んで話を聞きたい。取手市の臨時会議の件は、昨日の読売新聞に出ていた。まず、自殺者は年間3万人いた。ここ数年だんだん減ってきている。これは非常にいいなと思う。逆に、中学生高校生の自殺はぐっと増えている。危機感を持っている。次に、いじめ事件に共通に出てくる問題がある。隠蔽体質という言葉が必ず出てくる。まず学校が外に出さない。教育委員会もそこでクローズし、なかなか出そうとしない。今の取手市の話も、最初から重大ないじめではないというところからスタートしている。報道関係では共通して非常に厳しい批判をしており、はじめてそこで関係者の発言が変わってくる。みな同じケース。私は、認知のところから初期対応をするのはいいと思う。もっと言うと、東海村にもいじめはある、常にある、という認識が非常に大事。ともすると、東海村にはない、という声も多いが、これが一番危ない。これが本当の実態を隠してしまうと私はそう思っている。今話を聞くと、東海村は透明性があり、初期対応は安心するが、もう少し突っ込んでお話をされるとどうか。要するに、現状はどうなのか。今の子どもたちの置かれている環境は大変。もっとオープンにしてもいいのではないか。一方、オーバーワークで学校の先生は疲れきっている。

教育長：鋭い指摘をされました。1つ、教職員のオーバーワークに関しては、昨日の新聞で、東海村の小中学校は、お盆の8月14、15、16日は学校を休校日にし、先生方には休んでもらい、学校に電話等の要望あれば、教育委員会で全て受けるとし、少しでも改善しようとしている。毎週水曜はリフレッシュデーということで、中学校であれば部活動が6時30分頃までかかる。子どもが一番遅く帰宅する7時30分まで待ち、先生もできるだけ退勤しようと、小学校では5時半には水曜日は退勤しようと、できるだけリフレッシュできる機会を設けたいと考えている。

2つ目は、まさに透明性でいかななくてはならないと思っている。私を信じてもらいたい。約束しましょう。いじめの認知件数を東海村のHPで公表する。公表しても恥ずかしいことではない。その代わり、件数が多いから、その学校はいじめが多いという認識だけはとらないでほしい。子ども達が学級の中で自分の思いや考えを何でも言える、という雰囲気作りができている、と考えでいただきたい。公表しましょう。子どもたちは大変なので、自己有用感を育む、自分が認められ必要とされるという経験が今の子どもたちは非常に少ない。いろんな場面で、例えば真崎古墳群の除草作業で60名くらい中学生が来た。雨で中止にしたが、中学の子どもたちを地域に出して、地域の中で話をしながら、助かったよとか、元気もらえたよとか、必要とされる、感

真崎地区 村政懇談会

謝される、認められる場面をどんどん作っていきたい。そうすることで、必要とされている自分に気づき、主体的な生活ができる子どもになっていくのではないかと。すると自殺の方向に走ることはなくなっていくのではないかと考えて取り組んでいきたい。

舟石川三区住民：先日、うちの舟石川の常会の大西さんという方が、亡くなった。ボランティア活動を、図書館で10年位にわたり、本を図書館で直し、1万冊を超えた。今どのくらいの本が破って持っていかれるのか。東海村の図書館は、日本平均と比べるとどうなのか確認したい。いつも本を借りると、何日までに返してという紙を挟んで、やさしく対応してくれる。ところが、その紙を入れたまま本を返すと、その紙だけ返される。たくさん集めたらすごいゴミになるのではと思うのだが、捨てるのも大変なのかもしれないが、回収も含めて考えてはどうか。言いたいのは、大西さんのご苦勞を紹介したいということと、図書館ではどれくらい苦勞しているのかを簡単に紹介いただきたい。

教育長：公立図書館で、学校紙ですよ。破かれているのは耳にしている。本村ではそういうことはない。

舟石川三区住民：あそこで貸している本。図書館で10年弱で1万件の本を直したとことで村から表彰されているはず。今日は答えられないと思うが、図書館で壊される件数は相当あるはず。それに対しどういう手を打っているのか聞きたい。普段貸している本でどのくらいあるのか分からない。

教育長：学校紙などと勘違いした。普段貸し出している本は、ちょっと分からない。申し訳ない。確認したい。図書館でどのくらいあるのかは分からない。

舟石川三区住民：ないように手を打っているのであれば、それでいい。最近変な人もいて本を破ったりするので、対策を考えているのであればぜひやって欲しいし、そういうことをぜひ紹介してもらえるとありがたい。

教育長：まず、調査をしたい。差し込みも私も返されたことある。どれくらい破かれた本があるのか、差し込みが返された件も確認したい。

真崎区住民：村の検討委員会で、村の最大の地域資源である大神宮や、阿漕ヶ浦を活かした、村松地区の魅力作りと、それによる活性化計画が進められている。その件に関し、お願いがある。結論から言うと、村松地区の周辺活性化計画は、東海村では、歴史だとか科学だとかが一体化した魅力があるところで計画が検討中であるが、成果を絵に書いた餅にしないために、村の方針として、東海村公共施設等総合管理計画に取り入れ、計画的に実現するものとしてもらいたい。先ほども、東海村公共施設等総合管理計画の話があったが、全ての公共施設を対象とし、3月に策定されているが、5年ごとに見直すとの事で、確かに施設の老朽化で義務的経費が沢山見込まれ、投資的な経費を投入できないと書かれているが、投資をしないと次の成果が出ないという

真崎地区 村政懇談会

のも確かにある。既存施設の縮減や、公共施設の有効活用、いろいろな要素を足して集約するということかと思う。それから官民連携の推進などが書かれている。私もそういったことで対処するしかないと考えている。既存の施設だけでは村は活性化できないので、新しい施設整備もいると思う。ですので、東海村の未来のために、ぜひ村松地区周辺活性化計画を絵に描いた餅にしないために、公共施設等総合管理計画に取り入れ、計画的に実施する方針としていただきたいというお願いである。

村長：村松周辺地区を国道245号の拡幅に合わせあの一体を整備したいという思いがある。国道245号が拡幅されると便利になるが、通過道路になってしまうとなんの意味もない。ひたちなか海浜公園にゴールデンウィークに1日5万や10万の人が来て、そのうち1割でも村に寄ってくれれば。大神宮や虚空蔵尊があるといっても、滞留施設がない。そこで休憩できたり、物が買えたり、そういった道の駅のようなものになってしまうが、地域に人が来て活性化するようなもの、そのためのハードが必要で、計画に盛り込まなくてはいけないと思う。既存道路の修繕は必要だが、中央地区で駆け上がり線から将来的には原研通りまで道路ができるのも、大きな投資だが、あれも総合管理計画に位置づけなくてはならないが、あれを作ること、ほんとにアクセスが良くなったりとか、いろいろな人が将来的に定住したりすることにつながる。未来への投資になるが、どのタイミングで計画に位置づけるか。一方では、総論として、計算上の話として10%削減とあるが、そんなに均一的にはできないので、思い切って止めるものは止めるとしなないといけないが、出していない。これを出すには相当勇気がある。当然いろいろな関係者がおり、その人たちの思いをつぶすことになる。相当な反発があり、それは私も政策的な判断をするには悩む。今はそれが言えないので、数字だけをいじっているように見えるが、今の時点の村の計画としては、これが限界であることをご理解願いたい。ただ、縮小だけしていくと、村として発展しないから、新しいものも入れて、皆さんの批判を受けることを恐れずに、きちんと示していきたい。

真崎区住民：先ほどの教育に関して。いじめは、学校の先生に余裕がないと、十分な指導ができないと思う。先生が日曜出勤とか、遅くまで答案作りなどをやって、遅くまでやって手一杯で、子どもの面倒を見られない。そういう状況があるのではないか。その目安として、日曜出勤をしているのか、夜遅くまで学校の電気が付いているか、子どもと話ができる授業になっているか、の3点をお聞きしたい。

教育長：日曜出勤は、小学校はほぼないと思う。教務主任は、いろいろ教育計画等があるためあると思う。教頭もあると思う。中学校は部活の関係である。ただ、東海村では、月曜放課後は部活がない。土日は大会がなければ、どちらか1日を休みとしている。2つ目は、遅くまで電気が付いているかは分からないが、この前の話し合いで、遅くとも中学校は10時には消灯するとした。子どもたちが部活を終え家までたどり

真崎地区 村政懇談会

着くのに一番遠いところで40分かかる。下校指導をして帰すのが7時前、すると7時半まで遅くとも残ることになる。そこから教材研究等すると1時間半はかかってしまう。そこを是正しなくてはならないが今の状況ではなかなかできない。申し訳ない。そこはできるだけ、9時半か、遅くとも10時か、そこより遅くならないようにできるだけ改善していきたい。

真崎区住民：先生は残業手当が出ないよね。

教育長：調整額といって4%位しかつかない。15,000円くらいで、役場の職員とは異なる。そこも文科省で今検討しているようだ。民間から考えたら、残業手当が出なくてはおかしいのではないかと、検討している。今すぐ私がやることはできない部分があるため、勘弁願いたい。

真崎区住民：朝起きるのが、5時とか6時になっている。10時に学校から帰り、朝5時6時に起きるというのは、家で何もできない。

教育長：朝練もある。できるだけそこは考えていきたい。それで、今、子どもたちと話し合いができないかと、授業で子どもたちと一緒にグループで会話する学び合いをやっている。以前までの一方通行な一斉の授業を今はやっていない。グループ活動をしながらか所に先生が入る形で、子どもたち同士の学び合いをやっている。ですので、子どもたちの気持ちをつかむのは、私たちの時代よりも今の若い先生方のほうが上手と思う。ただ時間的な負担、精神的な負担の改善は必要だとつくづく思っている。

真崎区住民：少子高齢化というのは、だいぶ前から騒がれているが、まず子どもの貧困率について。6人に1人の割合で、貧困の家庭、子どもがいる。東海村ではどうなのか、が1点目。それから、老老介護が多くなっていると思う。この対応を村ではどう考えているか。もうひとつ、女性活躍推進会議について。女性の活用・活躍からすれば、待機児童の問題、実は私の孫がなかなか保育所に入れなかったこともあり、こういう問題も関わってくるかと思う。どういうものなのかを教えてください。

福祉部長：まず、子どもの貧困率についてだが、大変申し訳ないが、具体的な調査は村ではやっていないため、現在は分からない。申し訳ない。老老介護の件については、確かに問題が色々あるが、現在東海村でも、全国的にも、地域包括ケアシステムの構築ということで、2025年問題、要するに団塊世代が75歳になる時期を目途に、地域包括ケアシステムを構築しようということで、村内で医療介護連携等を進めるために、それぞれの各関係機関と協議を重ねてどのようにそれを構築したらいいかを進めているところ。具体的に今どうするか、ということになると、なごみに地域包括支援センターがあるので、まずはそこにご相談をいただければ、なんとかできることは支援という形でご相談に乗りたいと考えている。

教育次長：こどもの貧困についての質問だが、教育委員会では、ある一定の所得以下の世帯に対して、準要保護児童生徒に就学援助金を出している。給食費とか、学用品

真崎地区 村政懇談会

費など、様々な学校でかかる経費について、ある所得に満たない人、これはひとり親の方で子どもを養育するときに出される児童扶養手当を基準に考えているのだが、これが東海村は5%程度になる。先ほど話にあった6人に1人だと、パーセントにすると16%。東海村の場合は、ある一定所得基準に満たない児童生徒のいる家庭は5%と、全国平均から見れば3分の1程度になるかと思う。ひとつの目安。

村長：昨日、女性活躍推進会議を村でやった。あれは女性の社会進出、子育て支援、キャリアアップ、を含め、村内商工会や関係者をなど集めて、意識を高めようというもの。男女平等といわれても、まだまだ役場自身もできていないところがある。男性上司とか、同僚男性職員に、もうちょっとそこを意識してもらおうと。肝心の待機児童解消は、冒頭申し上げたが、村ですぐに保育所を作る予定はない。こども園は、幸の実園とオックス東海ができて、そこが順調に運営できれば、施設的には定員を拡張できる余地が残っているので、そこに期待しているところはある。今1歳児がどうしても足りなくなっている。幸いにして保育士は確保できているようなので、そこは引き続き需要を見ながら、なんとかできるだけ早く受け入れ環境を整えるようにする。

以上